

7/2 思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修講座第1日を実施しました。

講義「高校から大学・社会へのトランジションを目指した高大接続改革」

学校法人桐蔭学園理事長 トランジションセンター所長・桐蔭横浜大学特任教授
溝上 慎一

主な内容

- ・高校から大学・社会へのトランジション（移行）に関して、10年の調査の結果、高校2年時の資質・能力が大学1年時の資質・能力に大きく影響する
- ・アクティブラーニング型授業について（講義+アクティブラーニング（書く・話す・発表する等）の「外化」） ※講義は否定されているわけではなく、「聴く」ことも重要
- ・AL型授業では、生徒の身体性が重要（教師の指示が生徒に通ったり、他の生徒の発表を「傾聴する姿勢」を指導する）
- ・「個」-「協働」-「個」のサイクルをつくる（ワークシートを活用）



[溝上慎一先生の講義資料](#)

もっと知りたい方は・・・

[「溝上慎一の教育論」のウェブサイト](#)
(外部サイトに移動します)



質疑にも答えていただきました

講義「高大接続改革の方向性～新学習指導要領の視点を踏まえて～」

独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括補佐官（兼）審議役
白井 俊



主な内容

- ・ 大学入試改革の意味（大学入学時点で求める力が試験問題を通じて伝わる，良問を通じて高校生の学習意欲や教員の学習指導の改善を引き出し，学習成果を高める等）
- ・ DeSeCoキーコンピテンシーと新学習指導要領の資質・能力について（ターゲットは2030年）
- ・ アクティブ・ラーニングについて（教科の深い理解への児童生徒の状況を踏まえた柔軟な授業デザイン，実現するためには教師が教育専門家としての専門性を磨くこと等）
- ・ 大学入学共通テストの問題作成方針や英語成績提供システムについて

白井先生の講義資料 [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#)

[大学入試センターのウェブサイト](#)（大学入学共通テストのページ）
（外部サイトに移動します）

受講者の感想

- ・ 「外化」や「身体性」というキーワードを通して，アクティブ・ラーニングについて深く理解できた。自らの授業への姿勢や考え方等について再考したい。
- ・ アクティブ・ラーニングが柔軟な授業デザインという考え方に目からうろこが落ちた。言葉の意図や意味をよく理解し，ねらいをもって授業を設計していこうと思う。
- ・ これからの時代を担う生徒たちに必要な資質・能力を考慮した高大接続改革であることが理解できた。

各教科・科目の分科会の様子

3日間の見通しをもち，協力者からの実践発表を聴いたり，共通テストプレテストの分析を行ったりしました。

